

憲法が輝く兵庫県政をつくる会  
第43号 2024年7月1日  
HP・X (旧ツイッター)  
「兵庫・憲法県政の会」検索! 【部内資料】

# 「知事選挙に向けて、今何を」 「わがこと」としてたたかう体制の確立を

## 「憲法県政の会」団体・地域代表者会議



「憲法が輝く兵庫県政をつくる会」は、25年知事選挙まで1年余となった6月21日、加入団体・地域の会代表者会議を開催し31組織が参加しました。

会議では、石川康宏代表幹事が「次期兵庫県知事選挙に向けて、今何を」と題して報告と問題提起を行い、「政策・ビジョンの策定、組織の強化、共闘の拡大、学習など『憲法県政の会』の総力をあげて取り組みを強化しよう」と呼びかけました。

次いで、「告発文書」について、日本共産党庄本えつこ県会議員が報告しました。

その後、参加者が6グループに分かれて意見交換。最後に各グループ討論の司会が報告を行い、津川知久代表幹事が討論のまとめ報告をしました。

「知事の違法行為等について」の文書問題について  
日本共産党 庄本えつこ県会議員  
前西播磨県民局長は内部調査により停職3か月の懲戒処分となりました。

しかし、文書には事実が含まれていること、調査に関わった県の顧問弁護士が、知事の政治資金に関連する疑惑をもたれた県信用保証協会の顧問弁護士であることが判明。

全会派の要求で第三者機関の設置が決定しましたが、その準備にあたるのが県の幹部OBの代表監査であることや、片山副知事の議

会への不当な介入が明らかに。  
その後、県民に負託を受けている議員による百条委員会が設置され、14日、第1回の百条委員会が開かれました。

今後、各会派の思惑や動静についても注視しながら、告発文書の7項目などについて真偽を明らかにし、県政を県民のものにすることがともに、知事選勝利に向けてがんばります。



【討論のまとめ報告】  
津川知久代表幹事  
百条委員会の設置など斎藤知事

### 「次期兵庫県知事選挙に向けて、今何を」

代表幹事 石川康宏



今日は2月の総会で決定した方針を当面どう実行するかについての意見交換です。総会につづきグループ討論と討論結果の交流に1時間以上を予定しています。誰もがこの会の運営主体という立場でご参加ください。

幹事会からの話題の提起ですが、1つは24年度県予算の採択と内部告発文書以後の県政の混乱です。斎藤知事と知事与党である自民や県民連合などの間に溝ができており、任期満了以前の選挙の可能性も視野に入れておかなばなりません。2つは7月の候補者発表、7・8・9月での地域の会の学習総会の実施、加入団体での選挙への構えの再確認などです。特に地域の会の再建、活性化は決定的です。7月9日発刊の『ウィーラブ兵庫』第10号を大いに学びましょう。3つはすべての幹事団体のより積極的な参加の問題です。加入団体の総力を終結する構えが必要です。政策・ビジョンの策定、組織の強化、共闘の拡大、学習など力をあわせて取り組むべき課題はいくらでもあります。

他にも、みなさんから自由に検討テーマの提起をお願いしたいと思います。

### 「ウィーラブ兵庫⑩」を力に運動を強めよう

『ウィーラブ兵庫⑩』は、知事選挙に向けて、現在の県政に対する評価と、めざしたい県政の内容を整理したものです。積極的に注文して頂き学習活動を強めていきましょう。

【価格】1部500円(送料別)

【内容】A5版110ページ

県政の信頼回復を(代表幹事あいさつ)

座談会①「兵庫県庁は何をしている?期待したいこと」

私たちの願い(市民運動からの寄稿)

座談会②「『内部告発』大丈夫なの斎藤県政!？」

戦争でなく平和に向かう兵庫県へ

私たちの願い(団体からの対県要求)

データ・目で見る兵庫県政



をめぐって県議会勢力の様々な動きがあるが、その背景にはかつてない生活困窮に陥えようとする現県政に対する県民の怒りがあります。

県民生活を守る「新しい知事」と「新しい県施策」に転換するため、各団体・地域は25年知事選を「わがこと」としてたたかう体制を早期に確立していきましょう。

### グループ討論 司会(代表幹事・事務局)からの報告

#### 【第1グループ】

齋藤県知事の動向について、百条委員会に県民としての意見を反映させる取り組みが必要。また彼の政治的立ち位置の分析を示してほしい。早く「会」として候補者擁立を。

県政への要望については「子どもたちを万博に強制動員させない」「PFAS汚染で県は本気で調査を」「市バス便の削減から県民の足を守れ」「学級担任をなくし学年担任しかつけないのはとんでもない」「播磨臨海道路の計画ルートにある高校から『もう生徒募集できない』という悲鳴が上

#### 【第2グループ】

①批判ばかりでは暗くなる、明るい希望の見える取り組みに、②県政は遠く感じる、政治への願いでかまわない、③『ウィーラ④補聴器補助、⑤パートナーシップ制度などの実現もあつた、声をあげることに



がつている」などの意見続出。

### 万博への児童・生徒の動員は中止を学校現場で懸念の声広がる



齋藤元彦兵庫県知事は4月11日、万博に関して、県と県内企業3社が公民連携し、県内の小中学校や高校、特別支援学校等に通う児童・生徒ら最大56万人を、校外学習など学校行事として会場訪問を希望する学校にチケットを配付すると発表しました。これに対し、「憲法県政の会」加入団体の中止を求める運動が広がっています。

兵庫県高教組と兵庫教組は、兵庫県教委に対し、「事実上、学校行事を中止するよう、知事・万博推進局に意見をあげること」を求めた申し入れを行いました。県教委は「『希望』が前提で強制することはない。県教委が事業説明や募集するものでもない」と回答。つまり、「強制するものではない」ということです。教育課程の編成権は学校にあり、各校の判断が重視されるべきです。

また、新婦人県本部・21支部は、市長・市教委・各学校に「学校行事として万博参加は行わないでください」との申し入れ活動を行っています。「教育的意義がないので考えていない」と意見を寄せる学校や、理解を示してくれる学校もあり、学校現場で懸念の声が広がっていることが伺えます。

万博会場は、3月28日にメタンガスによる爆発事故があつた他、バスで行くのならばバスの確保、駐車場から会場までの距離、夏季を中心とした時期の見学となるため熱中症対策等々、課題が山積しており、児童・生徒の動員中止を求めます。そもそも、莫大な税金の無駄遣いである万博そのものの中止を兵庫県は国に申し入れるべきです。

自信を、⑤パワハラだけでなく知事による県政の私物化を許さない取り組みとして百条委員会への請願、スタンディング、SNSでの発信を、⑥万博行くなという学校への働きかけ等。

#### 【第3グループ】

パワハラは確かに問題ではあるが、週刊誌的な扱いをされている百条委員会は、議会の内輪の話(政争の具)であつて、県民一人一人の問題としては捉えられていないのではないか。市町の人々にとつては、県政は遠いもので、身近には感じられない。農業問題・高齢者の交通手段・介護問題など、地域(市町)の要求を汲み上げるためには、『ウィーラ⑩兵庫⑩』を広め学習し、一人一人が運動体となる必要がある。

#### 【第4グループ】

知事選まで一年、齋藤知事への告発問題に、県民の、県政への関心が高まっている。高校統廃合、万博の学校行事参加、都市部の開発と置き去りの過疎地域、止まらない人口減少、社会保険料負担増など、思いつき・県民切り捨てのトップダウンの齋藤知事の資質を糺し、公共をとりもどして「ボトムアップ」、くらし・住民本位の県政に変えていく、そのために私たちの運動を広げ可視化していく、と話し合った。地域・団体・職場で『ウィーラ兵庫⑩』を広



#### 【第5グループ】

国政も含め政治は変えようという雰囲気を感じさせる事態ではないか。その中で地域から県政への要求をどうまとめるかが重要。地域に地域組織がある団体の「県政を変えよう」という意思統一が必要。幹事団体がそれぞれの地域組織をいかに活性化させるか。そのためにも、地域の問題に引き寄せることが求められている。その中で学習の輪を広げる取り組みを。県政を語るというのはなかなか難しい。読み上げれば普及できるようなもので学習モデルを作るのが良い。

#### 【第6グループ】

県政は市町や国政より身近でないとの意見が出た。出たが、実際には万博の子ども「動員」に関する各学校へのアンケートを行うなど県政は生活に深く関わっていると認識された。次の県知事選挙は県政を県民の手に取り戻すチャンスとの意見も。選挙体制では、地域の会が休眠状態である問題が指摘され、要求を出してくれた人を選挙をたたく主体となつてもらうことが大切だとの意見の他、早期の候補者擁立による選挙ムードの醸成が必要との意見が出た。



### 県庁「告発文書」をめぐる主な経過

- 3/12 西播磨県民局長が「齋藤知事の違法行為等について」を各機関に送付。①日常的パワハラ、②21年知事選挙での事前活動、③25年知事選挙に向けた投票依頼、④企業や市町の視察の際に贈答品を求める、⑤商工会議所や商工会に補助金カットをチラつかせてパーティー券を大量購入させる、⑥プロ野球優勝パレードの費用不足を信用金庫への補助金を増額してキックバックで埋めた
- 3/27 知事「内容は事実無根で名誉棄損や地公法違反の疑い」
- 4/16 県議会で産業労働部長「加西市の会社から届いた商品を返すことになつてしたが、倉庫で保管していた」
- 4/18 知事、産業労働部長の贈答品受け取り問題について、「私自身が指示したり、受け取ったりした事実はない」
- 5/7 元県民局長を停職3カ月の懲戒処分。神戸新聞「県、処分先行 早期幕引き図る」「内部調査 公平性に疑問」
- 5/14 知事「第三者委員会を検討。県議会の意見も聞き」
- 5/20 県議会全会一致で、知事批判文書で第三者機関設置
- 5/21 神戸新聞「文書で指摘された団体の顧問弁護士 県の内部調査に協力」
- 5/23 知事、内部調査に疑惑団体の関係者問題で「報道で初めて知った」
- 5/29 知事「第三者機関準備は監査委員(代表監査委員は歴代幹部OB)」
- 6/8 知事「うそ八百、表現が行き過ぎていた。反省している」
- 6/10 本会議で「片山副知事が百条委員会を決めた自民会派に、自身の辞職と引き換えに提案撤回を持ちかけた」ことが判明
- 6/12 知事「副知事の思い一定理解」。事前の指示は否定
- 6/13 県議会で5年ぶりに百条委員会設置を可決、7項目のパワハラ疑惑など調査へ

